

平成 26 年度 旭ヶ丘中学校区 小中連携・一貫教育 実施計画

学校名	旭ヶ丘中学校	生徒数 1年 209名	2年 224名	3年 220名	計 653名
		職員数：県費 45名	市費 2名	非常勤（内数） 2名	
	伊賀良小学校	児童数 1年 161名	2年 176名	3年 149名	
		4年 167名	5年 173名	6年 173名	計 999名
		職員数：県費 59名	市費 7名	非常勤（内数） 7名	
	山本小学校	児童数 1年 43名	2年 38名	3年 30名	
		4年 51名	5年 52名	6年 53名	計 267名
		職員数：県費 20名	市費 3名	非常勤（内数） 0名	

*児童生徒数、職員数は平成26年度の見込み数

1 研究課題

9年間で育成する「めざす児童生徒像」について職員、保護者、地域の方々と話し合い、それを達成するために小中でどのように連携し一貫した指導を行っていくかについて検討し、実践を積み重ねていく。

2 目的

- (1) 義務教育9年間で育成したい児童生徒像（「めざす児童生徒像」）について職員、保護者、地域の方々と話し合うことを通して、学習指導や生徒指導の根底におく理念を明らかにする。
- (2) 教科領域の9年間の系統性について理解し、教科ごと、教科としてめざす児童・生徒像を話し合い、小中が連携し身につけさせたい力（内容）を明らかにする。
- (3) 9年間継続して指導・支援していくための共通のシートを作成し、配慮を要する児童生徒について学級担任や教科担任をはじめ全職員が必要な情報を把握できるようにすることで、個に寄せた9年間一貫した支援の体制をつくる。

3 実践内容

- (1) 小中9年間一貫した指導・支援体制作り
 - ① 9年間で育成する「めざす児童生徒像」について話し合い、小中連携の目的を共有化する。
 - ア 夏季三校研修会の中で、KJ法等を用いながら旭ヶ丘中学校区の「めざす児童生徒像」について討議を行う。
 - イ 夏季三校研修会の中の小中連携教科会で、教科としてめざす児童生徒像について話し合い、それを達成するために各学年でどのように一貫した指導を行っていくか検討する。
 - ウ 旭ヶ丘中学校30周年記念式典の中でパネルディスカッションを行い、「めざす生徒像」をボトムアップで明確にしていく。

【パネルディスカッション】案

日 時：9月26日（金） 「かやの木祭」開祭式に引き続いて実施

参加者：旭ヶ丘中全校生徒、小学校6年生全員、来賓、地域の方々、保護者

内 容：(1) 基調提案 旭ヶ丘中学校 各学年1名

(2) パネルディスカッション

パネラー：伊賀良小6年1名、山本小6年1名、地域の方ー伊賀良1名、山本1名、先輩ー初代生徒会長1名、旭ヶ丘中学校長 計6名

テーマ案：「輝く（素敵）な未来 旭ヶ丘中学校区の子どもたち」

「義務教育9ヶ年で育みたい伊賀良・山本の子どもたち」

準 備：生徒・保護者の願いー5月～7月アンケートの実施・集計

小中職員の願いー8月の三校研修会で討議

地域の願いー学校評議員会で話題にし、その中からパネラーを人選

② 小中連絡会、体験入学等を通して小中のスムーズな接続を図る。

ア 小中連絡会

第1回 小学校職員による中学校授業の参観、懇談

第2回 中学校職員による小学校授業の参観、懇談

第3回 学級編成と個別支援について懇談

イ 文化祭見学

かやの木祭 開祭式の見学、パネルディスカッションへの参加

ウ 体験入学

中学校の授業参観、中学1年生による学校生活紹介、校長講話 など
時間をとることができれば、小学校児童同士の交流

③ 配慮を要する児童生徒を支援していくための3校共通の支援シートを作成する。

*保護者氏名、兄弟関係、家庭環境、生育歴などの基本情報を記入する。

*児童生徒の学校生活・家庭生活のエピソードを時系列に沿って書き加えていく。

*欠席日数は月ごとに記入し、小学校1年からの欠席状況も学年毎に記入する。

*本人、保護者、担任・学校の願い、支援目標（長期・短期）も記入。

*誰が、いつ、どのような支援を行ったか、その支援の評価とともに時系列に沿って書き加えていく。

*担任が替わるとき、支援シートを次の担任にきちんと引き継ぐ。

④ 特別支援教育の小中の滑らかな接続のため、中学校での体験学習や教育相談を年間計画に位置づけ実施する。

*7月、11月、2月に小学生と保護者による中学校特別支援学級の授業参観と懇談を位置づける。

*特別支援学級の担任同士で機会ある毎に情報交換を行い、滑らかな接続ができるようにする。

(2) 小中職員の連携

① 夏季三校研修会の中で小中連携教科会を実施する。

*各学年の年間指導計画、教科書等を持ち寄り、どの学年でどんな内容について学習するのか、9年間の系統性を確認する。

- *教科としてめざす児童生徒像について話し合う。
- *小中で連携し特に身につけたい力（内容）を決めだしていく。
- ② 小学校外国語活動と中学校英語の連携
 - *どのような連携を行うことができるか、前述の小中連携教科会の折りに検討する。
 - *外国語活動と中学校英語の違いを共通理解し、中学校職員による出前授業ができるかどうか検討していく。
- ③ 中学校教員による出前授業の実施
 - *出前授業により、中学校教員の児童理解を深めるとともに、6年児童の中学校授業への不安の解消を図る。教科は算数、理科を中心に考えていく。
- ④ 研究授業・公開授業の参観
 - *各小中学校で行われる研究授業や公開授業についてお互いに情報を交換し、できるだけ他校の研究授業や公開授業を参観するようにする。
- ⑤ 小中一貫したキャリア教育の推進
 - *小中のキャリア教育担当職員が集まり、旭ヶ丘中学校区の小中一貫したキャリア教育推進計画を作成していく。

(3) 地域との連携

- ① 「めざす児童生徒像」についての話し合い
 - *旭ヶ丘中学校30周年に合わせ、パネルディスカッションを実施する。(前述)
 - *山本小学校では、毎年6月に地域の方々に集まっていただき「山本の子どもを伸ばすフォーラム」を実施している。伊賀良小学校でも同様なものを実施できないか検討していく。
- ② 地域行事への参加、地元の団体との連携
 - *児童生徒が地元の行事や公民館活動に積極的に参加するようにし、地域の方々といっしょに児童生徒を育てていくという意識の向上を図る。
 - *小中学生が地域の運動会、祭り、行事、子ども教室や奉仕活動へできるだけ参加するように工夫していく。
 - *ひまわり子ども委員会、杵原学校応援団、伊賀良・山本地区青少年健全育成協議会などと連携し、両地区で実施しているデイキャンプで交流を行うとともに、中学生もできるだけ参加できるよう、運営方法等を工夫していく。
- ③ 小中連携・一貫教育についての広報
 - *公民会便り、学校便り等を利用し、旭ヶ丘中学校区として取り組んでいる小中連携・一貫教育について保護者、地域の方々に広報を行い、取り組みについて理解・協力していただけるよう呼びかけていく。
- ④ 支援を必要とする家庭についての小中合同のケース会議の実施
 - *民生委員、まちづくり委員会、まちづくり協議会関係者の出席していただき、小中合同のケース会議を実施していく。

4 推進日程 平成26年度（予定）

- ① 5月29日（木） 小中連絡会①（個別の支援シートについての検証）
- ② 6月18日（水） 飯田市職員研修会

- ア 山本小 : 小学校1・2年部会 (幼保小の連携を考える)
- イ 伊賀良小 : 特別支援 (幼保小中の連携を考える)
- ウ 旭ヶ丘中 : 小学校5・6年、中学校1年部会 (小中連携を考える)
- ③ 7月 小学生と保護者による中学校特別支援学級の授業参観と懇談①
- ④ 8月18日(月) 夏季三校職員研修会
 - ア 「めざす児童生徒像」についての討議
 - ・ KJ法を用い、旭ヶ丘中学校区の「めざす児童生徒像」について討議を行う。
 - ・ 可能であれば地域の方にも参加していただく
 - イ 小中連携教科会
 - ・ 旭ヶ丘中学校区として小中が連携し特に身につけさせたい力(内容)を再確認
 - ・ 具体的指導方法や教材について検討
- ⑤ 9月26日(金) 小学校6年生の中学校文化祭参観
 - 旭ヶ丘中学校30周年記念式典でのパネルディスカッション
 - 会場: 旭ヶ丘中学校体育館(“かやの木祭”の開会行事に引き続き)
 - 参加者: 全校生徒・小学生(6年生)・地域の方々
 - テーマ例: 「輝く(素敵な)未来 旭ヶ丘中学校区の子どもたち」
 - 「義務教育9ヶ年で育みたい伊賀良・山本の子どもたち」
- ⑥ 11月 小学生と保護者による中学校特別支援学級の授業参観と懇談②
- ⑦ 11月21日(木) 小中連絡会② 個別の支援シート使用
- ⑧ 1月15日(木) 新入生体験学習
- ⑨ 2月24日(火) 小中連絡会③ 個別の支援シート引継
- ⑩ 2月 平成27年度の推進(日程)についての打ち合わせ(3校教頭)

5 地域との連携 3(3)に記載

6 推進にあたっての課題、推進委員会への提案とその根拠

- (1) 平成26年度の計画実施に向けて、各校で担当職員を決め職員会議等で扱い、小中の職員が必要感を持って小中連携・一貫教育に取り組めるようにしていく。
- (2) 児童生徒が交流を行うには移動に時間がかかってしまい、なかなか思うように実施できないのが実情である。バス等の利用について予算面での支援をお願いしたい。
- (3) 集団下校方法、災害時の児童生徒引き渡し方法など学校によってまちまちである。各校の実情も考慮しながら、防災関係の連携も図っていきたい。